

国語 第3学年 詩のくふうを楽しもう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

詩を読んで気付いた言葉の響きや並べ方を、自分の表現を考える手掛かりにする。詩の本文を写して自作としない。単元の終わりに残すのは、観察したこと、自作の詩、使った言葉の工夫と読み合い後の見直し。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)オ	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

単元の目標

文章の内容や構成を意識して音読し、言葉の響きや表現の工夫に気付ける。書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。詩を読んで理解した内容に基づき、表現のよさについて感想や考えをもてる。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の内容や構成を意識して音読し、言葉の響きや表現の工夫に気付いている。〔知識及び技能〕(1)ク)	①「書くこと」において、書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめている。(B(1)オ) ②「読むこと」において、詩を読んで理解した内容に基づき、表現のよさについて感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全4時間（書②、読②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩を音読して言葉の工夫を探す。	思②（読んだ詩への感想）
	2	○自分が見聞きした様子を言葉にする。	知①（音読と表現の確認）
	3	○語や行の並べ方を変えて書く。	知①（音読と表現の確認）
	4 （本 時）	○読み合ってよいところと理由を伝える。	思①（自作の詩と交流記録）



本時の案

本時の目標：書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」 【めあて】詩を読んで気付いた言葉の響きや並べ方を、自分の表現を考える手掛かりにする。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返すと音が残る。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」 自分で書いた詩を読み合い、聞き手が思い浮かべた様子と、そう感じた言葉を伝える。書き手は表したかった様子と感想を比べ、繰り返しや語の順、行の分け方を残すか直すか選ぶ。直す前後を音読し、変えた理由を記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返すと音が残る。 ・行を分けるとそこで間を置きたくなる。 ・友達は別の言葉に注目した。	独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。 想定するつまずき：作品の語を入れ替えただけで自分の詩とする、気付いた工夫と自作の関係を説明しない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめている。（自作の詩と感想の交流記録） ◎知① 文章の内容や構成を意識して音読し、言葉の響きや表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク）（使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達は別の言葉に注目した。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、作品の語を入れ替えただけで自分の詩とする、気付いた工夫と自作の関係を説明しない。この場合は、独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。おおむね満足できる状況は、書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 観察したこと、自作の詩、使った言葉の工夫と読み合い後の見直し。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年下巻」69行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

